

教育課程・学習成果の検証

1. 学科・専攻の「開講科目数（必修・選択必修・その他）」「非常勤講師比率」「学生の入学から卒業までの平均受講科目数」等のデータを参考に、学生の受講科目数に対して開講科目数は適切か、非常勤講師比率は適切か、学生にとって体系的な科目編成となっているか等を検証

【検証結果（全体概要）】

「開講科目数」は必修 38, 選択 225。17年度以降、選択・必修ともに僅かに減少している。「非常勤講師比率」は 34.58%であり、全体平均の 40.79 を下回っていた。「平均受講科目数」は 88.4 で全体の 83.7 を少し上回っている。史学科 3 コースの内、東洋史・西洋史は対象研究地域が世界の多様な地域に跨るため、学生の関心を満たすためにはある程度の科目数が必要となる。このことを考慮すると、開講科目数のうち選択科目が他学科より多く必修が少ないこと、平均受講科目数が全体を少し上回っていることは、開講科目数が適切であり、学生にとって体系的な科目編成となっていることを示すと言える。非常勤講師比率については、全体平均より低く、適切と判断できる。

【成果および向上施策】 ※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし

【課題および改善施策】 ※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

2019年度から新カリキュラムが始まっている。その完成段階での検証が必要である。

2. 「卒業時アンケート」「PROG（ジェネリックスキルテスト）結果」「学修行動比較調査」「進路・就職状況」「免許・資格取得状況」「休学・退学・留年数」「授業アンケート結果」等のデータを参考に、学科・専攻の教育について、効果が挙げられている点、改善すべき点を検証

【検証結果（全体概要）】

2018年3月卒業生のうち、東洋史コースの学生の総合満足度および「成長したと思う」が低く、「成長していない」が高いことは、内訳を見ると、特にゼミでのテーマや卒業論文完成についての成長度が低いことから、3回生時の2018年11月における担当教授の急逝による精神的ダメージが4回生時にまで続いていることが大きな要因と考えられる。2019年度は総合満足度および「成長したと思う」が100%と急激に回復しており、教授急逝後の学科での対応が奏功したとみられる。

【成果および向上施策】 ※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし

【課題および改善施策】 ※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし

3. 学科・専攻として、教育の質向上・改善に向けた組織的な取り組み（FD）をおこなっているか。おこなっている場合、それはどのような内容か、どのような課題認識に基づくものか。

【検証結果（全体概要）】

毎月1回程度、学科会議後にFD会議を行い、各教員が知りうる学生動態について情報を共有し、対応を議論している。これはとりわけ、年々増加する、学修に困難を感じる学生への対応策を強化するという課題認識に基づいてい

る。加えて、初年次教育が特に重要との認識から、1回生担当の史学基礎演習 A・B（学科全教員で担当）については重点的に FD 対象としている。前期担当の A では年度末～初めにかけて担当教員が集まり、前年度の学修効果を検証した上で、テキストの内容の見直しと改訂を行っている。後期担当の B でも、授業開始前の 8、9 月に担当教員が集まって授業内容についての同様の検証と見直しを行っている。

【成果および向上施策】 ※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

学修困難な学生について教員間での情報が共有され、対応策を立てやすくなった（とくに 2 年生進級時のコース分けにおいて効果が出ている）。

【課題および改善施策】 ※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし

4. 教員組織の編成（採用・昇任等）にあたって、職位構成および年齢構成のバランスに配慮した編成をおこなっているか。また、カリキュラムに基づく教員組織となっているか。

【検証結果（全体概要）】

2019 年度の教員は 60 歳代が 3 名、50 歳代が 3 名、40 歳代が 5 名、2019 年度の教員は 60 歳代が 3 名、50 歳代が 3 名、40 歳代が 6 名である。2019-2020 年度に 40 歳代の教員を採用したため、年齢構成のバランスが改善された。

職位は、教授 8 名、准教授 4 名とややバランスを欠いているが、大学院との連携を考えると適切である。

カリキュラムとの関連については、カリキュラム・ポリシーを踏まえ、日本史・東洋史・西洋史コースで構成されるカリキュラムに対し、古代・中世から近現代までの各時代を担当できる教員を満遍なく配置している。

【成果および向上施策】 ※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし

【課題および改善施策】 ※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし